



富山県立大学概要 2023

- Outline of TPU -

公立大学法人富山県立大学

Contents

- 法人概要
- 沿革、歴代学長
- 法人組織図
- 役職員
- 附属施設等の概要
- 教員数、学生数
- 入学試験結果
- 卒業・修了後の進路、就職状況
- 産官学連携・地域貢献活動
 - 国際交流
 - 財務状況
 - 学内マップ
- 最近の特記事項

法人概要

1 目的

公立大学法人富山県立大学は、地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、及び管理することにより、富山県における知の拠点として、広く知識と技術を授け、未来を志向した高度な専門の学術を深く教授研究するとともに、特色ある教育を行い、人間性豊かな創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成し、併せて、広く開かれた大学として、優れた教育研究の成果を地域や社会に還元し、もって富山県はもとより我が国と世界の学術文化の向上と地域及び産業の振興、保健及び医療の充実、社会の発展に寄与する。

2 業務

- (1) 県立大学を設置し、これを運営すること。
- (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (3) 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う教育研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (5) 県立大学における教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

3 事務所・校地の所在地

- 【射水キャンパス】 富山県射水市黒河 5180 番地
【富山キャンパス】 富山県富山市西長江二丁目 2 番 78 号

4 資本金の状況

6,614,440,000 円 (全額 富山県出資)

5 校地・建物面積

◆校地面積

- 【射水キャンパス】 約 19.8ha (学校敷地 11.2ha、運動場その他 8.6ha)
【富山キャンパス】 約 1.2ha (学校敷地 1.2ha)

◆建物面積

- 【射水キャンパス】 約 66 千㎡ (本部棟、中央棟、講義棟、研究棟、合同棟、生物工学科棟、図書館、体育館、大谷講堂、DX 教育研究センター等)
【富山キャンパス】 約 15 千㎡ (教育棟、エントランス棟、研究棟、図書館棟)

6 基本目標 (公立大学法人富山県立大学第 2 期中期目標<令和 3~8 年度>)

- (1) 学生を大きく伸ばす教育力の高い大学
学生の課題解決力を身につける実践重視の教育を推進し、地域社会はもとより国際社会で活躍できる有為な人材を育成する。
- (2) 未来を志向した高度な研究を推進する大学
基盤的・先端的な研究を推進し、県内産業、保健及び医療の発展はもとより国内と世界の学術の向上に貢献する。
- (3) 広く開かれ地域社会に貢献する大学
富山県における知の拠点として、優れた教育研究成果を広く地域社会に還元し、地域及び産業の振興並びに保健及び医療の充実に貢献する。

○建学の理念

- (1) 富山県の発展をめざした県民の大学
- (2) 未来を志向した大学
- (3) 特色ある教育をめざした大学

○大学の設置目的

- 1 次代を担う青年の多様な個性の開発を促し、視野の広い、人間性豊かな、創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成。
- 2 学術の中心として広く知識、技術を授け、未来を志向し、高度な専門の学芸を深く教授研究。
- 3 学術、産業及び医療との有機的連携を進めるとともに、富山県民の本学に対する地域振興の原動力としての期待や生涯学習に対する多様な要請に応え、科学技術の新たな拠点として、学術文化の向上と産業及び医療の振興発展に寄与。

7 教育の特色

【工学部】

(1) 少人数によるゆきとどいた教育

- ① 教員1人当たり学生数10人
- ② 全ての学年における少人数ゼミの導入

(2) 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成

- ① 低学年における専門科目を拡大する、くさび型カリキュラムの実施
- ② 3年次からの研究室配属（生物工学科、医薬品工学科）
- ③ 民間企業からの提案に基づく卒業論文テーマへの取り組み

(3) 基礎知識・基礎技術の確実な修得

基礎科目、実験・演習の重視

(4) 学部・大学院（博士前期課程）を通じた連携教育体制の確立

6年一貫教育を意識した体系的カリキュラム

(5) 学生の自立を促すキャリア教育の実施

- ① 学生のキャリア形成につながる実践的で体系的な教育プログラムを、入学から卒業まで展開
- ② キャリアセンターによるきめ細やかな指導・助言

(6) 環境リテラシーを育む環境教育プログラムの実施

持続可能な社会の実現に向けて環境への幅広い視点と倫理観（環境リテラシー）を備えた工学技術者を育成するため、導入教育から専門教育に至るまで全学部横断型の体系的な環境教育プログラムを展開

【看護学部】

(1) 「自ら学ぶ力」を身につける

- ① 少人数によるグループ学修やアクティブラーニングなど、主体性を持って協力して課題に対応する学び方を多く取り入れる。
- ② eラーニング教材を用いて、学生が自ら学ぶ姿勢を支援

(2) 多様な実習の場で実践力をつける

富山県立中央病院をはじめ、県内の公的病院や訪問看護ステーション、様々な保健医療福祉施設で地域に密着した実習を行う。

(3) 工学的な視点を「看護」の世界へ

工学的視点を取り入れた人にやさしい看護学について学び、新時代の看護師を目指す。

(4) キャリア形成科目で自分らしい生き方を探す

- ① 1年次から、「トピックゼミ」「キャリア体験実習」を通して、自分らしい看護師像や働き方を考える。
- ② 県内公的病院などへの就職もサポート

【文部科学省：大学教育再生の戦略的推進の採択状況】

(1) 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）

① 地域連結型「知の結集」工学教育プログラム [H16～18]

地域活性化への貢献をテーマに、産学官が連携して工学教育を実施。

- ・卒業研究テーマの募集
- ・修士論文テーマの提案
- ・MOT（技術経営）や知的財産に関する新講義の開設
- ・「論文準修士制度」の創設（H18.4～）

② 学生の自立を促す統合型キャリア増進プラン [H18～20]

学生の高い職業意識や幅広い人間形成を支援する。

- ・計画的なキャリア形成科目群の構築
- ・総合的なキャリア活動実績評価制度の導入（キャリアポイント、キャリアパスポート）

③ 富山型環境リテラシー教育モデルの構築 [H19～21]

持続可能な社会の実現に向け、環境リテラシーを備えた環境調和型技術の創造者を育成するとともに、あらゆる高等教育機関で実施されるべき環境教育モデルを提示する。

- ・恵まれた自然環境と公害等環境問題が凝縮された富山県の風土環境の活用
- ・小規模大学の特性を生かした全学横断型教育の試行
- ・導入教育から専門的教育まで体系化・統合化した環境教育プログラムの実施
- ・学生の主体的な学習を促す教育システムの提供（キャンパスフィールド活動等）

(2) 「大学生の就業力育成支援事業（就業力支援GP）」

企業社会で活躍できる骨太人材育成プランの構築 [H22～23]

- ・学生の自己開発力を強化するキャリアドックの開発・実施
- ・学生の社会性・実践力を涵養するキャリア教育の展開
- ・学生の就業力・生きる力を増進する支援ネットワーク体制の整備

(3) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化 [H24～26]

中部圏23大学の中部地域大学グループと連携し、アクティブラーニングを活用し、地域・産業界との連携を通して、産業界等のニーズに対応した人材を育成する。

(4) 特色ある大学プログラム（特色GP）

フィールド実習をコアとした流域環境教育 [H17～18]

水環境に恵まれた本県の特性を生かして、フィールド実習をコアとした流域環境教育を実施。
(旧短期大学部)

(5) 大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）

環境調和型高度ものづくり能力の育成 [H19～21]

環境に配慮した安全・安心な社会の構築を目指したより高度な専門教育と研究を展開し、「環境調和型高度ものづくり能力」を備えた人材の育成を図る。

(工学研究科機械システム工学専攻)

- ・高度な機械工学分野の専門能力を有する人材の育成
- ・資源循環型社会の実現に向け、今日的課題を解決できる人材の育成
- ・幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を有する人材の育成

(6) 地(知)の拠点整備事業

「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築 [H25～29]

地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題に取り組む学生の育成や地域を志向した研究・社会貢献を行う「地域協働型大学」の構築を目指す。

- ・全学的な取組み：新たな学長直属組織（COC推進本部）の設置
- ・自治体との連携：富山県、射水市をはじめ既に本学と連携実績のある市町との連携強化による事業の推進
- ・教育：学生の主体的な社会参画や課題解決力の育成を図るため、地域との交流・対話・協働の促進を目指すカリキュラムの見直しやサポート体制の整備
- ・研究：地域課題を志向した研究の推進のため、教員の意識改革と学生の参画促進
- ・社会貢献：生涯学習や企業人材育成支援事業の充実・発展

【文部科学省：大学における医療人の養成の採択状況】

(1) ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（看護学部） [R3～R4]

新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習での学生の人数制限や時間短縮等が余儀なくされる中で、デジタル技術を活用した下記の取組みを行うことにより、教育の質を保証するとともに、学生の体験不足を補い、高度な看護人材を継続的に養成することを目指す。

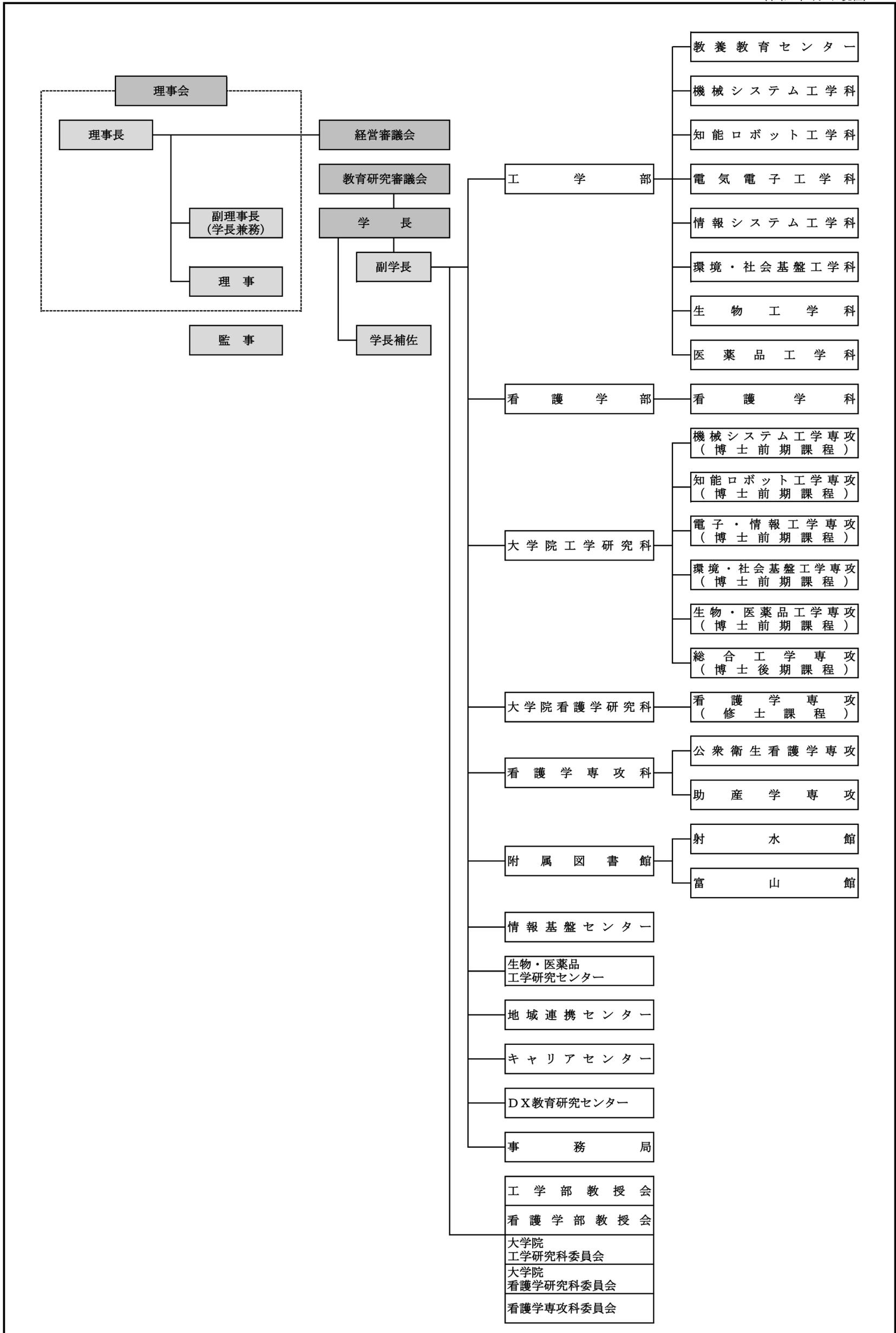
- ・各臨地実習に即した情報を登録した電子カルテシステムを完成させ、ライフサイクルに応じて成長するシミュレーション患者を用いた看護展開を学修
- ・手術室における看護師の一連の動きをアバターとして体験できるVR手術室を作成し、手術室での看護をリアルに学修
- ・患者の術後創部と摘出検体を3Dプリンターで作成し、創部観察や処置を行うことで実体験を補足

沿革

- 昭37. 4月 富山県立大谷技術短期大学 開学（農業機械科、機械科、応用数学科設置）
- 昭47. 4月 富山県立技術短期大学に名称変更
- 平 2. 4月 富山県立大学開学【日本海側初の工学系公立大学】
（機械システム工学科、電子情報工学科設置）
短期大学部を併設（農業技術学科、環境工学科設置）
- 平 4. 10月 バイオテクノロジーの研究拠点として生物工学研究センター開所
- 平 6. 4月 大学院博士前期課程（機械システム工学専攻、電子情報工学専攻）開設
- 平 8. 4月 大学院博士後期課程（機械システム工学専攻、電子情報工学専攻）開設
大学院博士前期課程（生物工学専攻）開設
- 平10. 4月 大学院博士後期課程（生物工学専攻）開設
短期大学部専攻科（生物資源専攻、地域環境工学専攻）開設
- 平15. 4月 短期大学部の農業技術学科と環境工学科を再編し、生物資源学科と環境システム工学科を設置
- 平16. 4月 地域連携センター開所
- 平17. 4月 短期大学部専攻科（環境システム工学専攻）開設
- 平18. 4月 工学部に新たに生物工学科を設置するとともに、機械システム工学科と電子情報工学科の2学科を、機械システム工学科、知能デザイン工学科及び情報システム工学科の3学科に再編
併せて、大学院博士前期・後期課程を3専攻から4専攻に再編
- 平19. 3月 短期大学部生物資源学科廃止
- 平19. 4月 キャリアセンター開所
- 平20. 3月 短期大学部専攻科（生物資源専攻）廃止
- 平21. 4月 工学部環境工学科開設
- 平22. 3月 短期大学部環境システム工学科廃止
- 平24. 3月 短期大学部環境システム専攻廃止
短期大学部閉学
- 平25. 4月 大学院博士前期課程（環境工学専攻）開設
- 平27. 4月 公立大学法人富山県立大学設置（地方独立行政法人化）
大学院博士後期課程（環境工学専攻）開設
- 平28. 4月 機械システム工学科及び知能デザイン工学科の入学定員の増
- 平29. 4月 工学部医薬品工学科開設
情報システム工学科及び環境工学科の名称を、電子・情報工学科と環境・社会基盤工学科にそれぞれ変更し、あわせて入学定員を増員
- 平30. 4月 知能デザイン工学科の名称を知能ロボット工学科に変更
- 平31. 4月 看護学部（看護学科）開設
工学部教養教育センター設置
生物工学研究センターの名称を生物・医薬品工学研究センターに変更
- 令 2. 4月 工学部電気電子工学科及び情報システム工学科開設
- 令 3. 4月 大学院博士前期課程の5専攻全ての入学定員を増員及び4専攻の名称変更
大学院博士後期課程の5専攻を廃止し1専攻（総合工学専攻）に再編
- 令 4. 4月 DX教育研究センター開所
- 令 5. 4月 大学院看護学研究科修士課程（看護学専攻）及び看護学専攻科（公衆衛生看護学専攻、助産学専攻）を開設

富山県立大学 歴代学長

初代	藤井 澄二	（平成2年4月1日～平成9年3月31日）
第2代	川端 昭	（平成9年4月1日～平成13年3月31日）
第3代	中島 恭一	（平成13年4月1日～平成19年3月31日）
第4代	田中正人	（平成19年4月1日～平成23年3月31日）
第5代	前澤 邦彦	（平成23年4月1日～平成25年3月31日）
第6代	石塚 勝	（平成25年4月1日～平成31年3月31日）
第7代	下山 勲	（平成31年4月1日～現在）



役職員

(令和5年7月1日現在)

理事長		山本 修
副理事長 学長		下山 勲
理事 副学長	教育研究 担当	中島 範行
副学長	情報戦略 担当	鳥山 朋二
副学長	教育研究(富山 キャンパス)担当	岡本 恵里
理事 事務局長		石黒 雄一
理事 (非常勤)		町野 利道
理事 (非常勤)		朝日 重剛
理事 (非常勤)		八十島 清吉
監事		林 衛
監事		堀 仁志

【経営審議会】

理事長		山本 修
副理事長		下山 勲
理事		中島 範行
理事		石黒 雄一
理事		町野 利道
理事		朝日 重剛
理事		八十島 清吉
外部有識者		蔵 堀 祐一
外部有識者		村上 美也子
外部有識者		稲村 睦子

【教育研究審議会】

学長		下山 勲
副学長	教育研究 担当	中島 範行
副学長	情報戦略 担当	鳥山 朋二
副学長	教育研究(富山 キャンパス)担当	岡本 恵里
工学部長 工学研究科長		坂村 芳孝
看護学部長 看護学研究科長		佐伯 和子
看護学専攻科長, 看護学科長, 学長 補佐		松井 弘美
学生部長		岡本 啓
入試・学生募集部長, 学長補佐		高木 昇
附属図書館長		川上 智規
地域連携センター所長		神谷 和秀
キャリアセンター所長		鈴木 真由美
情報基盤センター所長, 学長補 佐		大寺 康夫
生物・医薬品工学研究セン ター所長		加藤 康夫
DX教育研究センター 所長		唐山 英明
教養教育センター長		福原 忠
主任教授 (機械システム工学科)		堀川 教世
主任教授 (知能ロボット工学科)		小柳 健一
主任教授 (電気電子工学科)		島山 哲夫
主任教授 (情報システム工学科)		奥原 浩之

主任教授 (環境・社会基盤工学科)		伊藤 始
主任教授 (生物工学科)		生城 真一
主任教授 (医薬品工学科)		村上 達也
看護学生科長		木谷 尚美
看護研究・地域連携科 長		越田 美穂子
学長補佐		占部 大介
事務局長		石黒 雄一

【工学部】

工学部長		坂村 芳孝
教養教育センター長		福原 忠
主任教授 (機械システム工学科)		堀川 教世
主任教授 (知能ロボット工学科)		小柳 健一
主任教授 (電気電子工学科)		島山 哲夫
主任教授 (情報システム工学科)		奥原 浩之
主任教授 (環境・社会基盤工学科)		伊藤 始
主任教授 (生物工学科)		生城 真一
主任教授 (医薬品工学科)		村上 達也

【看護学部】

看護学部長		佐伯 和子
看護学科長		松井 弘美
看護学生科長		木谷 尚美
看護研究・地域連携科長		越田 美穂子

【大学院】

工学研究科長		坂村 芳孝
主任教授 (機械システム工学専攻)		堀川 教世
主任教授 (知能ロボット工学専攻)		小柳 健一
主任教授 (電子・情報工学専攻)		島山 哲夫
主任教授 (環境・社会基盤工学専攻)		伊藤 始
主任教授 (生物・医薬品工学専攻)		村上 達也
主任教授 (総合工学専攻)		伊藤 始
看護学研究科長		佐伯 和子

【看護学専攻科】

看護学専攻科長		松井 弘美
公衆衛生看護学専攻長		越田 美穂子
助産学専攻長		松井 弘美

【事務局】

事務局長		石黒 雄一
事務局次長		朝倉 正
経営企画課長 経営企画課課長 (新学部設置担当)		川辺 秀一
教務課長		熊本 奈央子
富山キャンパス事務部長 管理課長		村山 麻美
教務学生課長		岩城 隆純

●附属図書館射水館



射水館には理工系の専門書を中心に約16万冊の蔵書があり、学習コーナーは毎日多くの学生が利用している。館内にはキャレルや隠れ家風の閲覧席もあり、学生に学習の場を提供している。

●附属図書館富山館



富山館には看護学系の専門書を中心に約2万冊の蔵書があり、多くの学生が利用している。館内にはアクティブラーニングスペースや閲覧席もあり、学生に学習の場を提供している。

●地域連携センター



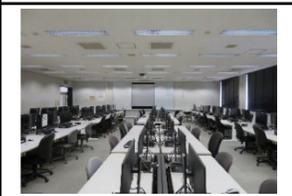
大学の知的資源を積極的に地域社会に還元することを目的とし、地元産業界との産学連携や地域交流を一体的に行っている。

●キャリアセンター



富山県立大学の理念に沿って、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育・支援を行い、学生の高い職業意識・能力の育成と、学生の就職支援を行っている。

●情報基盤センター



高度な教育研究をバックアップするため、学内のネットワーク環境を整備している。また、共同利用PCを射水キャンパスに約80台、富山キャンパスに約60台設置している。

●生物・医薬品工学研究センター



バイオテクノロジーに関する実用化に向けた基礎的研究及び応用研究を推進し、もってバイオテクノロジーに係る研究水準の向上を図るとともに、その成果及び技術を広く社会に還元する、という目的の下、県内企業や学内外の研究組織等との横断的な研究開発に積極的に取り組んでいる。

●パステル工房



子供がパステルを使って好きな絵を描くように、自由で柔軟な発想でものづくりに取り組んでほしい…、というのが命名の由来。実践的なものづくり教育・支援の拠点として活用されている。

●DX教育研究センター



デジタル技術を活用することによって社会に変革をもたらし、人々の暮らしをより良くするDXに取り組むことにより、地域社会はもとより、広く人々の生活を支援するための人材教育や高度な研究に取り組んでいる。

教員数、学生数

(令和5年5月1日現在)

●教員数

	学長	教 員					計
		教授	准教授	講師	助教	助手	
学長	1 (0)						1 (0)
工学部							
教養教育センター		9 (0)	16 (5)	6 (5)	1 (1)		32 (11)
機械システム工学科		6 (1)	9 (0)	3 (1)	2 (1)		20 (3)
知能ロボット工学科		7 (0)	5 (0)	6 (0)	4 (2)		22 (2)
電気電子工学科		4 (0)	6 (0)	3 (1)	0 (0)		13 (1)
情報システム工学科		10 (0)	2 (0)	5 (0)	3 (0)		20 (0)
環境・社会基盤工学科		6 (0)	10 (1)	4 (1)	0 (0)		20 (2)
生物工学科		7 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (1)		18 (1)
医薬品工学科		7 (0)	3 (1)	2 (0)			12 (1)
工学部 計		56 (1)	54 (7)	33 (8)	14 (5)		157 (21)
看護学部							
看護学科		12 (11)	10 (9)	18 (14)	18 (13)		58 (47)
合 計	1 (0)	68 (12)	64 (16)	51 (22)	32 (18)	0 (0)	216 (68)

※ () 内は女性教員で内数。大学院工学研究科教員は工学部教員のうち128名が兼務。大学院看護学研究科教員は看護学部教員のうち36名が兼務。

●学生数

		学生定員		学生現員				計	
		入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生		
工学部	機械システム工学科	60	240	60 (2)	60 (3)	67 (1)	65 (3)	252 (9)	
	知能ロボット工学科	70	260	74 (9)	68 (7)	59 (8)	76 (6)	277 (30)	
	電子・情報工学科	—	80	—	—	—	9 (0)	9 (0)	
	電気電子工学科	45	135	45 (2)	45 (2)	44 (2)	46 (2)	180 (8)	
	情報システム工学科	70	230	75 (3)	70 (9)	51 (7)	44 (4)	240 (23)	
	環境・社会基盤工学科	55	220	56 (15)	55 (19)	54 (8)	64 (13)	229 (55)	
	生物工学科	40	160	40 (23)	43 (29)	40 (20)	46 (26)	169 (98)	
	医薬品工学科	35	140	40 (21)	41 (31)	38 (20)	36 (21)	155 (93)	
	計	375	1,465	390 (75)	382 (100)	353 (66)	386 (75)	1,511 (316)	
看護学部	看護学科	120	480	120 (114)	120 (114)	119 (111)	120 (109)	479 (448)	
大学院工学研究科	博士前期課程	機械システム工学専攻	20	40	27 (2)	23 (1)			50 (3)
		知能ロボット工学専攻	20	40	22 (1)	28 (0)			50 (1)
		電子・情報工学専攻	27	54	24 (0)	28 (1)			52 (1)
		環境・社会基盤工学専攻	15	30	18 (1)	15 (5)			33 (6)
		生物・医薬品工学専攻	26	52	30 (11)	41 (18)			71 (29)
	計	108	216	121 (15)	135 (25)			256 (40)	
	博士後期課程	環境・社会基盤工学専攻	—	—	—	—	1 (0)		1 (0)
		生物・医薬品工学専攻	—	—	—	—	1 (1)		1 (1)
		総合工学専攻	10	30	8 (1)	6 (2)	5 (2)		19 (5)
	計	10	30	8 (1)	6 (2)	7 (3)		21 (6)	
工学看護学専攻	看護学専攻	10	10	13 (11)				13 (11)	
看護学専攻科	公衆衛生看護学専攻	看護学専攻	15	15	15 (15)				15 (15)
		助産学専攻	10	10	9 (9)				9 (9)
	計	25	25	24 (24)	0 (0)	0 (0)		24 (24)	
合 計		648	2,226	676 240	643 241	479 180	506 184	2,304 845	

※ () 内は女性で内数。

●教員一人あたり学生数

工学部	9.6 人	学生数	1,511	教員数	157	工学研究科	2.2 人	学生数	277	教員数	128
看護学部	8.3 人	学生数	479	教員数	58	看護学研究科	0.4 人	学生数	13	教員数	36

注) 学長は、教員数に含まない。

入学試験結果（令和5年度入試）

【工 学 部】

		(人、倍)							
選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数 (c)	競争倍率 (a/b)	(参考) 前年度 競争倍率	
学校推薦型選抜	機械システム工学科	14	21	21	14	14	1.5	1.3	
	知能ロボット工学科	17	19	19	17	17	1.1	1.4	
	電気電子工学科	11	17	17	11	11	1.5	1.1	
	情報システム工学科	17	37	37	17	17	2.2	2.6	
	環境・社会基盤工学科	14	15	15	14	14	1.1	1.7	
	生物工学科	11	17	17	11	11	1.5	2.1	
	医薬品工学科	10	29	29	10	10	2.9	2.5	
	計	94	155	155	94	94	1.6	1.8	
一般選抜	前期日程	機械システム工学科	39	90	86	55	44	1.6	3.2
		知能ロボット工学科	46	84	79	64	47	1.2	2.1
		電気電子工学科	29	60	58	41	32	1.4	3.6
		情報システム工学科	46	166	150	62	54	2.4	2.4
		環境・社会基盤工学科	36	106	95	52	41	1.8	2.3
		生物工学科	26	67	65	34	29	1.9	1.4
		医薬品工学科	23	87	84	33	29	2.5	2.5
		計	245	660	617	341	276	1.8	2.5
	後期日程	機械システム工学科	7	71	71	11	2	6.5	6.5
		知能ロボット工学科	7	72	72	25	10	2.9	3.7
		電気電子工学科	5	117	117	11	2	10.6	3.3
		情報システム工学科	7	142	142	7	4	20.3	7.9
		環境・社会基盤工学科	5	47	47	5	1	9.4	51.4
		生物工学科	3	14	14	3	0	4.7	5.3
		医薬品工学科	2	17	17	2	0	8.5	10.5
計	36	480	480	64	19	7.5	8.5		
私費外国人留学生入試	機械システム工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	知能ロボット工学科	若干名	0	0	0	0	—	2.0	
	電気電子工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	情報システム工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	環境・社会基盤工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	生物工学科	若干名	1	1	1	0	1.0	—	
	医薬品工学科	若干名	1	1	1	1	1.0	1.0	
	計		2	2	2	1	1.0	2.0	
計	機械システム工学科	60	182	178	80	60	2.2	3.3	
	知能ロボット工学科	70	175	170	106	74	1.6	2.3	
	電気電子工学科	45	194	192	63	45	3.0	3.1	
	情報システム工学科	70	345	329	86	75	3.8	3.0	
	環境・社会基盤工学科	55	168	157	71	56	2.2	5.6	
	生物工学科	40	99	97	49	40	2.0	1.8	
	医薬品工学科	35	134	131	46	40	2.8	2.8	
	計	375	1,297	1,254	501	390	2.5	3.2	

【看護学部】

(人、倍)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数 (c)	競争倍率 (a/b)	(参考) 前年度 競争倍率
学校推薦型選抜	看護学科	48	86	85	48	48	1.8	2.3
一般選抜	前期日程	62	266	240	68	64	3.5	1.6
	後期日程	10	162	42	11	8	3.8	3.0
計		120	514	367	127	120	2.9	2.0

●出身地域別の状況（令和5年度入学者）

【工学部】

都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占め る割合%	都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占め る割合%
富山県	398	192	49.2	静岡県	45	8	2.1
愛知県	248	54	13.8	その他	171	35	9.0
石川県	128	34	8.7				
岐阜県	108	29	7.4				
長野県	56	11	2.8				
三重県	52	10	2.6				
福井県	46	9	2.3				
新潟県	45	8	2.1	計	1,297	390	100.0

【看護学部】

都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占め る割合%	都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占め る割合%
富山県	212	68	56.7	その他	94	14	11.6
岐阜県	41	9	7.5				
長野県	37	8	6.7				
新潟県	29	7	5.8				
愛知県	49	5	4.2				
石川県	30	3	2.5				
三重県	14	3	2.5				
北海道	8	3	2.5	計	514	120	100.0

●令和5年度一般選抜成績（合格者）

前期日程

学部・学科		総合点			
		満点	最高点	最低点	平均点
工学部	機械システム工学科	1,100	664	489	556.9
	知能ロボット工学科	1,100	689	479	535.3
	電気電子工学科	1,100	655	514	578.2
	情報システム工学科	1,100	728	563	608.9
	環境・社会基盤工学科	1,100	692	482	548.9
	生物工学科	1,150	752	624	661.1
	医薬品工学科	1,150	829	666	717.6
看護学部	看護学科	1,000	698	627	647.2

学部・学科		大学入学共通テスト				個別試験			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
工学部	機械システム工学科	650	441	305	381.2	450	265	96	175.8
	知能ロボット工学科	650	435	314	377.3	450	273	70	158.0
	電気電子工学科	650	446	327	392.6	450	267	110	185.6
	情報システム工学科	650	453	358	408.7	450	296	121	200.2
	環境・社会基盤工学科	650	457	314	368.3	450	288	115	180.7
	生物工学科	700	506	377	430.3	450	307	171	230.9
	医薬品工学科	700	506	413	452.4	450	348	192	265.2
看護学部	看護学科	700	473	392	429.9	300	248	183	217.3

後期日程

学部・学科		総合点			
		満点	最高点	最低点	平均点
工学部	機械システム工学科	—	—	—	—
	知能ロボット工学科	—	—	—	—
	電気電子工学科	—	—	—	—
	情報システム工学科	—	—	—	—
	環境・社会基盤工学科	—	—	—	—
	生物工学科	—	—	—	—
	医薬品工学科	—	—	—	—
看護学部	看護学科	900	644	582	611.8

学部・学科		大学入学共通テスト				個別試験			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
工学部	機械システム工学科	1,200	920	829	871.8	—	—	—	—
	知能ロボット工学科	1,200	928	795	834.8	—	—	—	—
	電気電子工学科	1,200	870	825	842.5	—	—	—	—
	情報システム工学科	1,200	894	872	883.4	—	—	—	—
	環境・社会基盤工学科	1,200	895	877	884.8	—	—	—	—
	生物工学科	1,150	893	829	861.3	—	—	—	—
	医薬品工学科	1,150	889	874	881.5	—	—	—	—
看護学部	看護学科	700	480	428	461.5	200	164	134	150.4

卒業・修了後の進路、就職状況

●卒業後の進路状況（学部生）（令和4年度）

【工学部】

（令和5年3月31日現在）

区 分	卒業生		うち県内へ		うち県外へ	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
進 学 等	126	37.7%	118	93.7%	8	6.3%
就 職	208	62.3%	98	47.1%	109	52.4%
計	334	100.0%	216	64.7%	117	35.0%

●卒業・修了者の就職状況（令和4年度）

（令和5年3月31日現在）

	工 学 部	大学院工学研究科	計
就職希望者数	208 人	92 人	300 人
就職者数	207 人	92 人	299 人
就職率	99.5 %	100.0 %	99.7 %
うち県内就職率	47.1 %	26.0 %	40.8 %

●就職者の県内定着状況（過去5か年）

（人）

年度	県内出身者			県外出身者			就職者 合計			県内就職率		
	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内出身	県外出身	全体
令和4年度	89	27	116	33	150	183	122	177	299	76.7%	18.0%	40.8%
令和3年度	80	35	115	33	129	162	113	164	277	69.6%	20.4%	40.8%
令和2年度	93	24	117	36	128	164	129	152	281	79.5%	22.0%	45.9%
令和元年度	77	17	94	30	94	124	107	111	218	81.9%	24.2%	49.1%
平成30年度	65	18	83	27	113	140	92	131	223	78.3%	19.3%	41.3%

●出身地と就職先所在地（令和4年度）

出身地 \ 就職先	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
	北海道・東北		1							
関東		6	6	18	5	19	1	1		56
甲信越			10	1		2				13
富山	1	1	2	89	12	15	1	1		122
石川・福井				3	19	1				23
東海				3	3	56	2	1		65
近畿		1	1	2	2	5	3		1	15
中国・四国・九州						3	1			4
国外										0
合計	1	9	19	116	41	101	8	3	1	299

卒業・修了後の進路、就職状況

●卒業後の進路状況（学部生）（令和4年度）

【看護学部】

（令和5年3月31日現在）

区 分	卒業生		うち県内へ		うち県外へ	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
進 学 等	34	28.3%	25	73.5%	9	26.5%
就 職	86	71.7%	54	62.8%	32	37.2%
計	120	100.0%	79	65.8%	41	34.2%

●卒業者の就職状況（令和4年度）

（令和5年3月31日現在）

看 護 学 部	
就職希望者数	89 人
就職者数	86 人
就職率	96.6 %
うち県内就職率	62.8 %

●就職者の県内定着状況

（人）

年度	県内出身者			県外出身者			就職者 合計			県内就職率		
	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内就職	県外就職	計	県内出身	県外出身	全体
令和4年度	50	2	52	4	30	34	54	32	86	96.2%	11.8%	62.8%

●出身地と就職先所在地（令和4年度）

出身地 \ 就職先	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
	北海道・東北	1								
関東	1	3	1	2	1	1				9
甲信越			6							6
富山		1		50	2			1		54
石川・福井					4					4
東海			1		1	7				9
近畿							2			2
中国・四国・九州								1		1
国外										0
合計	2	4	8	52	8	8	2	2	0	86

●学部・大学院 学科・専攻別就職状況（令和4年度）
【業種別】

	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	学術研究、専門・技術サービス業	教育・学習支援業	医療、福祉	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）	計
機械システム工学科・機械システム工学専攻	6	43		2				3				1	55
知能ロボット工学科・知能ロボット工学専攻	1	20		24	1	1		5			1	1	54
電子・情報工学科・電子・情報工学専攻	2	28		38				5			6	1	80
環境・社会基盤工学科・環境・社会基盤工学専攻	27		1					11			1	9	49
生物工学科・生物・医薬品工学専攻		31		1	1		1	3	1		1	2	41
医薬品工学科		17				1		2					20
看護学科										86			86
合計	36	139	1	65	2	2	1	29	1	86	9	14	385

【就職先所在地別】

	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
機械システム工学科・機械システム工学専攻		13	1	23	2	12	4			55
知能ロボット工学科・知能ロボット工学専攻		12	2	18	5	16	1			54
電子・情報工学科・電子・情報工学専攻	1	14	5	30	9	18	2	1		80
環境・社会基盤工学科・環境・社会基盤工学専攻		12	2	19	5	10	1			49
生物工学科・生物・医薬品工学専攻		4	3	21	2	4	4	3		41
医薬品工学科		1		11		5	3			20
看護学科	1	9	6	54	4	9	2	1		86
合計	2	65	19	176	27	74	17	5	0	385

産官学連携・地域貢献活動

1 富山県立大学研究協力会の設立と地域連携センターの開所

平成16年4月、県内産業界の呼びかけにより、本学と産業界の連携を深めることを目的に、富山県立大学研究協力会が設立（R5.6月末現在 226会員）。

この動きに呼応し、地域貢献の総合窓口として、地域連携センターを開所。産学連携と生涯学習に関する各種事業を積極的に展開。

2 地域連携センターの活動状況（令和4年度）

- ① センター教員8名（兼務）、コーディネーター3名を配置し、企業からの技術相談、企業ニーズと大学シーズのコーディネートなどを実施。
 - ・センター来所実績 362 企業等
 - ・技術相談 342 件
- ② 地域連携公開セミナー（3回）の開催
- ③ 公開講座（3回）、県民開放事業（オープン・エバシティ）、ダ・ヴィンチ祭等の開催
- ④ 射水市商工協議会との交流会の開催
- ⑤ 各種イベントなどへの大学からの出展等（2回）
- ⑥ 社会人向けセミナーレディメイド型講座（4コース）
- ⑦ 社会人向けセミナーカスタムメイド型講座（4社）

3 県立大学研究協力会の活動状況（令和4年度）

- ① リエゾンサポーターの委嘱

大学と研究協力会との橋渡し役として、会員企業の技術担当者等をリエゾンサポーターに委嘱（161名）。
- ② テーマ別研究会の開催

企業ニーズに即した産学官の共同研究開発プロジェクトをめざし、技術談義の場として6つの研究会を立ち上げ、講演会などを開催（計6回）。
- ③ 講演会、県大教員の奨励研究への助成など

4 その他

① 論文準修士コースの開設

地域産業の活性化のため、平成18年4月、大学院（工学研究科）に、社会人のための「高度専門職業能力養成コース」を開設し、企業経営に必要なMOT（技術経営）等の専門知識の修得により、知的イノベーション能力を向上。

（これまでの入学者数：平成18年度6人、平成19年度6人、平成20年度4人、平成23年度1人、平成25年度1人、平成26年度1人、平成28年度1人、平成29年度0人、平成30年度1人、平成31年度0人、令和2年度1人、令和3年度0人、令和4年度0人、令和5年度1人）

② 自治体との連携協定の締結

平成18年4月13日、射水市と本学が連携協定を締結し、産業・教育・文化・まちづくりなど、幅広い分野で連携・協力を推進。

射水市と本学との連携協力を機動的に推進するため、連携推進会議の下部組織として「地域協働部会」を設置（平成25年11月）

また、平成28年10月24日には高岡市、平成29年4月18日には南砺市と連携協定を締結。

国際交流

●学術交流協定を締結している海外大学、研究機関

(令和5年3月31日現在)

国・地域	締結日	提携機関	提携テーマ
中国	H26(2014). 12.24	中国浙江科技学院	中国の動植物、微生物を利用した医薬品や食品の開発に関する共同研究
	H27(2015). 6.17	中国遵義医科大学	酵素触媒の開発及びそれらを用いる有機合成に関する研究
	R3(2021). 1.11	中国瀋陽化工大学(注1)	研究者、学生の交流、共同研究
	R4(2022). 6.30	中国医科大学	共同研究及びその他の学術活動
タイ	H17(2005). 8.1	プリンス・オブ・ソンクラ大学	有用微生物資源及び植物資源の開発に関する共同研究
	R1(2019). 11.30	カセサート大学	タイ国内の多様な環境から分離される微生物の機能性を利用した医薬や農薬の開発に関する共同研究
スリランカ	H29(2017). 5.4	スリランカ民主社会主義共和国 上下水道局(注2)	スリランカにおける飲料水の水質調査・改善の共同研究
		ペラデニア大学科学技術系大学院(注2)	
インドネシア	H30(2018). 12.18	ディボネゴロ大学	海洋生物や海洋微生物から医薬品等に有用な物質の探索に関する共同研究および研究者や学生の相互交流
	H30(2018). 12.31	インドネシア大学	薬草や微生物等を利用した医薬品等の開発に関する共同研究および研究者や学生の相互交流
	R4(2022). 7.28	タデュラコ大学(注3)	インドネシアにおける環境保全に関する共同研究
ベトナム	H25(2013). 1.9	ホーチミン市工科大学	環境に関する研究の促進
アメリカ合衆国	H10(1998). 10.9	アラスカ大学	ロケット実験による宇宙空間科学及び技術開発の推進
	R5(2023). 2.9	ポートランド州立大学	研究者、学生の交流、共同研究
ドイツ	H26(2014). 8.11	ビーレフェルド大学	酵素触媒の開発及びそれらを用いる有機合成に関する研究
スイス連邦	R3(2021). 3.20	バーゼル大学(注4)	研究者、学生の交流、共同研究

注1：2009年締結協定の更新

注2：2011年締結協定の更新

注3：2011年締結協定の更新

注4：2018年締結協定の更新

●学生交流協定を締結している海外大学、研究機関

(令和5年3月31日現在)

国・地域	締結日	提携機関	提携テーマ
中国	H26(2014). 12.24	中国浙江科技学院	特別研究学生交流
	H27(2015). 6.17	中国遵義医科大学	特別研究学生交流
	R3(2021). 1.11	中国瀋陽化工大学(注1)	単位互換に基づく学生交流
タイ	H17(2005). 8.1	プリンス・オブ・ソンクラ大学	特別研究学生交流
	R1(2019). 11.30	カセサート大学	特別研究学生交流
ドイツ	H26(2014). 8.11	ビーレフェルド大学	特別研究学生交流
スイス連邦	R3(2021). 3.29	バーゼル大学(注2)	学生交流
インドネシア	H30(2018). 12.18	ディポネゴロ大学	特別研究学生交流
	H30(2018). 12.31	インドネシア大学	特別研究学生交流

注1：2009年締結協定(2017.1.11更新)の改定

注2：2018年締結協定の更新

●外国人留学生数

(令和5年5月1日現在)

	学部 学生	大学院学生		研究生	特別聴講 学生	特別研究 学生	計
		修士	博士				
中国	1 (0)	7 (1)	2 (2)				10 (3)
インドネシア			3 (1)				3 (1)
バングラデシュ			3 (1)	1 (1)			4 (2)
インド		2 (1)					2 (1)
タイ						1 (0)	1 (0)
マレーシア	1 (0)						1 (0)
ガボン	1 (0)						1 (0)
ベナン				1 (0)			1 (0)
合計	3 (0)	9 (2)	8 (4)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	23 (7)

※ () 内は女性で内数。

財務状況

●貸借対照表の概要（令和5年3月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部			負債の部		
I	固定資産		I	固定負債	2,055 (16.4%)
1	有形固定資産	10,216 (81.6%)		資産見返負債	1,979 (15.8%)
	土地	3,257 (26.0%)		長期寄附金債務	65 (0.5%)
	建物	6,510 (52.0%)		長期リース債務	11 (0.1%)
	減価償却累計額	▲2,119 (▲16.9%)	II	流動負債	1,205 (9.5%)
	構築物	705 (5.6%)		運営費交付金債務	1 (0.0%)
	減価償却累計額	▲97 (▲0.8%)		預り施設費	66 (0.5%)
	工具器具備品	3,707 (29.6%)		預り補助金等	0 (0.0%)
	減価償却累計額	▲2,559 (▲20.4%)		寄附金債務	308 (2.4%)
	建設仮勘定	42 (0.3%)		前受受託研究費	36 (0.3%)
	図書	696 (5.6%)		前受共同研究費	29 (0.2%)
	美術品・収蔵品	72 (0.6%)		短期リース債務	20 (0.2%)
	車両運搬具	32 (0.3%)		未払金	623 (5.0%)
	減価償却累計額	▲30 (▲0.2%)		未払消費税等	3 (0.0%)
2	無形固定資産	110 (0.9%)		預り金	119 (1.0%)
	特許権	24 (0.2%)		負債の部 合計	3,260 (26.0%)
	ソフトウェア	46 (0.4%)		純資産の部	
	特許権仮勘定	40 (0.3%)	I	資本金	6,614 (52.8%)
3	投資その他の資産	178 (1.4%)	II	資本剰余金	1,685 (13.5%)
	投資有価証券	128 (1.0%)		資本剰余金	3,422 (27.3%)
	長期前払費用	50 (0.4%)		損益外減価償却累計額	▲1,737 (▲13.9%)
II	流動資産	2,020 (16.1%)	III	利益剰余金	892 (7.1%)
	現金及び預金	1,619 (12.9%)		前中期目標期間繰越積立金	771 (6.3%)
	未収入金	383 (3.1%)		積立金	144 (1.1%)
	前払費用	18 (0.1%)		当期未処分利益	▲23 (▲0.2%)
			IV	その他有価証券評価差額金	73 (0.6%)
				純資産の部 合計	9,264 (74.0%)
				負債純資産合計	12,524 (100.0%)
	資産の部 合計	12,524 (100.0%)			

●損益計算書の概要（令和4年度）

（単位：百万円）

経常費用		
業務費		
教育経費	828	(15.2%)
研究経費	1,051	(19.2%)
教育研究支援経費	248	(4.5%)
<u>教育研究経費小計</u>	<u>2,127</u>	<u>(38.9%)</u>
受託研究費	137	(2.5%)
共同研究費	132	(2.4%)
役員人件費	29	(0.5%)
教員人件費	2,041	(37.3%)
職員人件費	666	(12.2%)
<u>人件費小計</u>	<u>2,736</u>	<u>(50.0%)</u>
一般管理費	341	(6.3%)
経常費用合計	<u>5,473</u>	(100.0%)
経常収益		
運営費交付金収益	2,615	(48.0%)
授業料収益	1,174	(21.5%)
入学金収益	153	(2.8%)
検定料収益	36	(0.7%)
受託研究等収益	96	(1.8%)
共同研究収益	94	(1.7%)
寄附金収益	62	(1.1%)
施設費収益	104	(1.9%)
補助金等収益	505	(9.3%)
資産見返負債戻入	451	(8.3%)
雑益	159	(2.9%)
経常収益合計	<u>5,449</u>	(100.0%)
経常利益	-24	
臨時損失	6	
臨時利益	6	
当期純利益	-24	
目的積立金取崩額	1	
当期総利益	-23	

●外部資金の受入実績

(件、百万円)

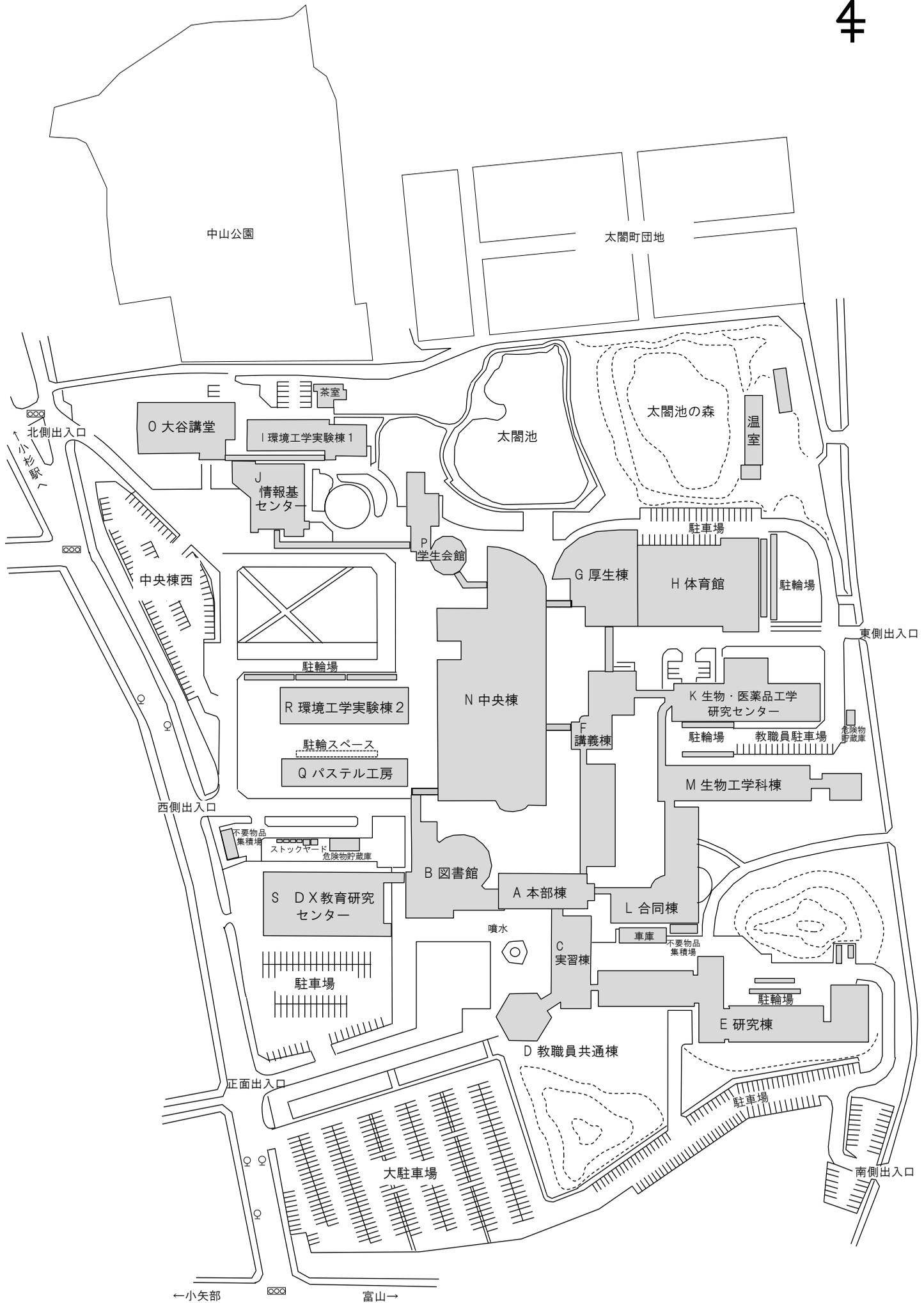
年度	受託研究費		共同研究費		奨励寄附金		科学研究費		学術相談		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和4年度	36	122	89	113	103	99	131	143	13	8	372	485
令和3年度	33	136	87	105	95	94	130	178	10	3	355	516
令和2年度	37	129	75	81	123	112	109	177	10	3	354	502
令和元年度	34	121	68	79	128	146	94	153	12	4	336	503
平成30年度	35	83	56	60	129	110	75	160	5	1	300	414
平成29年度	28	128	56	53	114	104	77	156	7	1	282	442
平成28年度	26	281	60	63	104	85	63	111	4	1	257	541
平成27年度	16	290	71	84	79	53	54	102			220	529
平成26年度	21	292	51	58	67	54	49	72			188	476
平成25年度	27	391	53	60	64	43	47	88			191	582
平成23年度	24	177	52	63	64	53	36	77			176	370
平成18年度	26	100	41	40	98	65	30	63			195	268
平成13年度	6	31	5	6	51	35	18	25			80	97
平成8年度	5	40	3	3	53	49	29	40			90	132
平成3年度	1	1	1	5	30	23	7	8			39	37

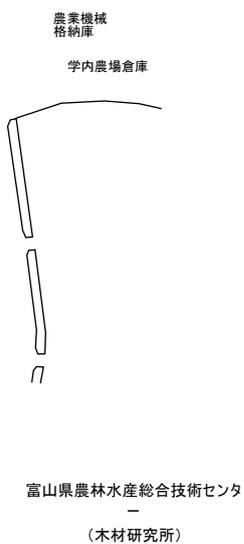
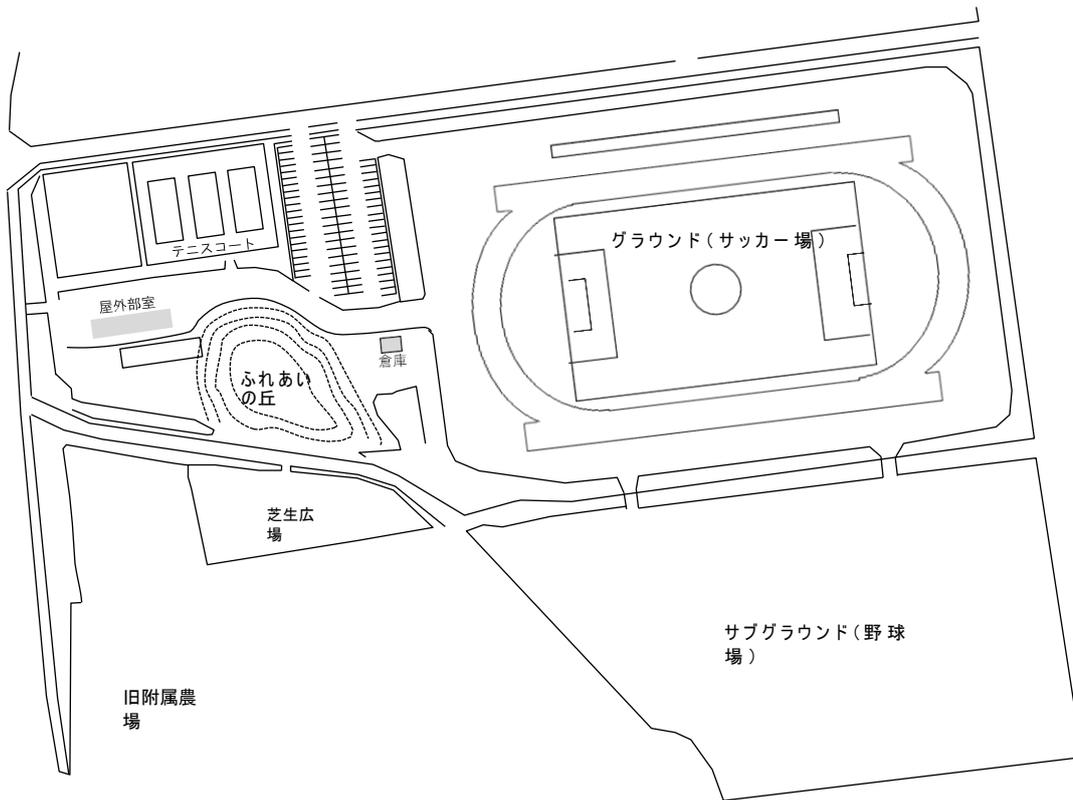
○H25～29年度の受託研究費には、ERATO「浅野酵素活性分子プロジェクト」に関する研究費が含まれています。

学内マップ

1 射水キャンパス施設全体図

4





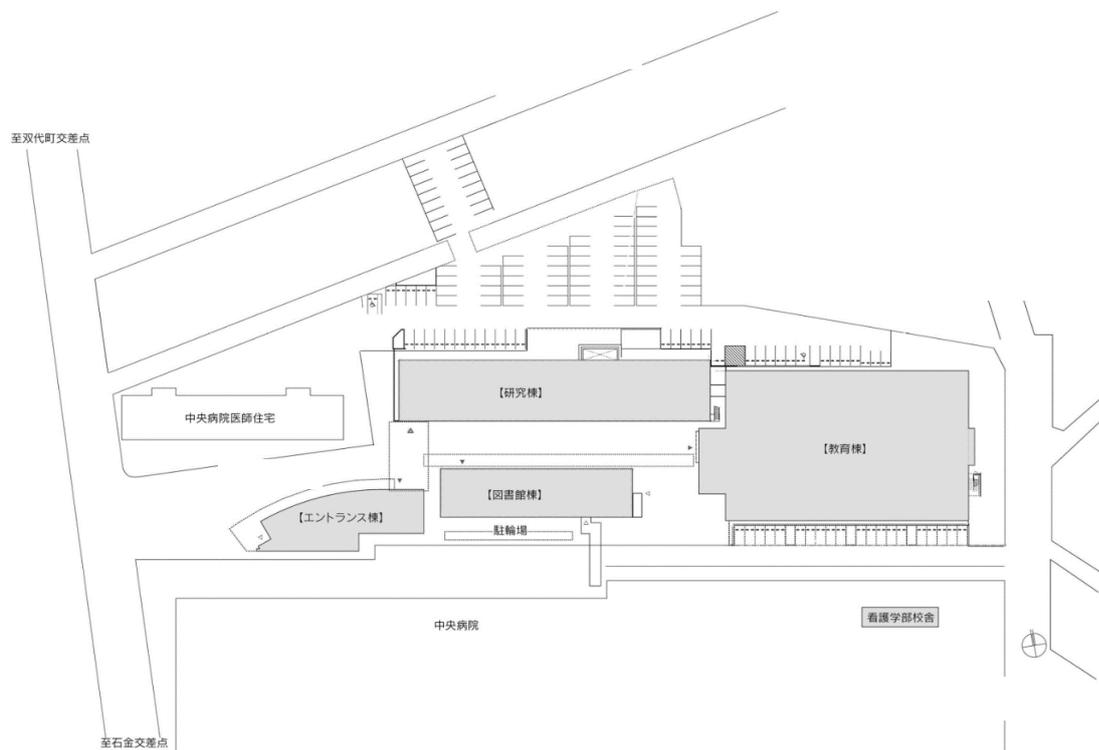
＜アクセス＞



〒939-0398 富山県射水市黒河5180番地
 TEL:0766-56-7500(代) FAX:0766-56-6182

あいの風とやま鉄道小杉駅南口から、徒歩約25分(約2km)、
 または射水市コミュニティバス「14.小杉駅・太閤山線」バス乗車約7分。

2 富山キャンパス施設全体図



＜アクセス＞



〒930-0975 富山県富山市西長江2丁目2番78号
TEL:076-464-5410(代) FAX:076-422-6070

JR富山駅、あいの風とやま鉄道富山駅から、地铁バス「中央病院行」約20分、または地铁電車「栄町駅」下車後、徒歩約7分。

最近の特記事項

1 大型競争的研究費の採択

○本学鎌倉講師（生物工学科）が科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（さきがけ）に採択（平成 25 年度） 【研究期間 平成 25 年度～平成 28 年度】

さきがけは、研究領域の責任者である研究総括が、複数の個人研究者を総括し、研究領域を「バーチャル・ネットワーク型研究所」として運営するもので、「生体における動的恒常性維持・変容機構の解明と制御」の研究領域において、鎌倉講師の研究課題「女王蜂における寿命制御機構の解明」が採択された。

○本学浅野教授（生物工学科）が科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（ERATO）に採択（平成 23 年度） 【研究期間 平成 23 年度～平成 29 年度】

個人型研究資金では国内最大級の事業で、研究費総額 14 億円程度、事後評価では最高評価を得た。

これまでの採択者には、ノーベル化学賞の野依良治氏や、青色発光ダイオード開発の中村修二氏など世界で活躍する研究者が名を連ねる。

○本学下山学長、塚越講師（知能ロボット工学科）、野田講師（知能ロボット工学科）の研究グループが新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「IoT 社会実現のための超微量センシング技術開発」に採択（令和元年度） 【研究期間 令和元年度～令和 5 年度】

社会課題解決と新産業創出を両立する Society5.0 の実現を目指し、超微量センシング技術に関するテーマとして「血中成分の非侵襲連続超高感度計測デバイス及び行動変容促進システムの研究開発」が採択された。

○本学長井教授（医薬品工学科）の研究グループが日本医療研究開発機構（AMED）の「産学連携医療イノベーション創出プログラム」基本スキーム【ACT-M】に採択 【研究期間 令和 2 年度～令和 4 年度】

アカデミア発の「技術シーズ」を産業界に円滑かつ効果的に移転することで新しい医療の実用化を目指すための産学連携による研究開発を支援するもので、研究課題「自然免疫制御による全身性エリテマトーデス治療薬の創製」が採択された。

2 各種受賞

○本学教員が紫綬褒章（平成 23 年度春）を受章

浅野教授（生物工学科）が、応用微生物学分野で、微生物や植物由来の新しい酵素を見出し、改変する等、酵素の新しい用途を発見するなどの功績により、平成 23 年 4 月 29 日付けで紫綬褒章を受章。

○本学教員が第 33 回（平成 28 年度）とやま賞を受賞

野村講師（生物工学科）が平成 28 年 5 月に「有用植物二次代謝産物の生合成機構の生化学的解明とバイオプロセスによる物質生産への応用」で、第 33 回とやま賞（学術研究部門）を受賞。

○本学教員が平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞

古澤講師（教養教育）が平成 29 年 4 月に「エピゲノム修飾による腸管制御性 T 細胞誘導制御の研究」で、平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞。

○本学教員が第 34 回（平成 29 年度）とやま賞を受賞

竹井教授（医薬品工学科）が平成 29 年 5 月に「植物の活用によるナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子材料の創出」で、第 34 回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第 35 回（平成 30 年度）とやま賞を受賞

山村准教授（教養教育）が平成 30 年 6 月に「元素の特性を活用した高次分子複合体の設計・開発」で、第 35 回とやま賞（学術研究部門）を受賞。

○本学教員が第37回（令和2年度）とやま賞を受賞

遠藤洋史准教授（機械システム工学科）が令和2年5月に「表界面制御技術を駆使した高分子系多機能性マテリアル群の開発」で、第37回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第38回（令和3年度）とやま賞を受賞

小山靖人教授（医薬品工学科）が令和3年5月に「ペプチドの交互共重合法の開発と生体材料の創製」で、第38回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第39回（令和4年度）とやま賞を受賞

寺島修准教授（機械システム工学科）が令和4年5月に「高精度圧力計測技術とスマートマテリアルを利用した振動騒音制御技術の開発」で、第39回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

3 国際交流

○瀋陽化工大学との国際学術協定及び単位互換に基づく学生交流に関する協定

平成23年1月に両大学で学術交流協定及び単位互換に基づく学生交流に関する協定を締結。23年4月から本学として初めての取組みとなる学生の交換留学を開始。

○バーゼル大学との学術交流に関する協定

平成30年3月に両大学で学術交流に関する協定を締結。バイオ医薬品や製薬技術分野を主とした国際共同研究や教職員の派遣、学生の交換留学等で学術交流を促進。

○ポートランド州立大学との学術交流に関する協定

令和4年8月、県オレゴン訪問団が派遣され、富山県知事とオレゴン州知事が「経済分野等における交流と協力に関する覚書」を取り交わし、本学とポートランド州立大学との学術交流協定締結に向けた支援を行うことが合意されたことを契機に、本学とポートランド州立大学との学術交流を深めるため、令和5年2月に学術交流協定を締結。

4 本学教員の研究成果が英科学誌「ネイチャー」に掲載

鎌倉講師（生物工学科）が、ローヤルゼリーに含まれ、ミツバチの幼虫を女王蜂に成長させるタンパク質「ロイヤラクチン」を世界で初めて特定し、その論文が、英科学誌「ネイチャー」の平成23年4月24日付電子版、5月26日付冊子版に掲載。

5 各種セミナー・交流会等

① 県立大学短期大学部閉学・県立大学起源50周年記念式典・記念講演会の開催

平成24年3月末に短期大学部が閉学となるとともに、県立大学が県立大谷技術短期大学の開学から数えて50周年の節目を迎えたことから、県立大学が、これからも地域に貢献し全国に誇れる大学として、更に発展、飛躍していくというメッセージを発信するため、平成24年8月にアイザック小杉文化ホールラポールで開催。

② サマースクールの開講

平成30年6月に発足した県内の産学官が連携して医薬品産業の振興や専門人材の育成と確保に取り組む「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの事業の一環として、全国の学生を受講生とする富山県立大学サマースクール<バイオ医薬品コース>を令和元年8月から実施。

③ 県立大学開学30周年記念式典・記念講演会の開催

30周年の節目を迎え、県立大学が、これからも「地域に貢献する知の拠点」として、教育と研究でさらなる飛躍を遂げるというメッセージを発信するため、令和2年10月にアイザック小杉文化ホールラポールで開催。また、30周年記念誌として、『富山県立大学 30年史』を発刊。

6 学術協定の締結

① 独立行政法人港湾空港技術研究所と連携・協力の推進に関する協定書を締結

平成27年3月に、両機関の研究開発能力と研究資産等を活かし、先進的・実用的な研究開発及び次世代を担う人材の交流・育成を目的とし、北陸3県の大学では初めてとなる連携・協力の推進に関する協定を締結した。

② 独立行政法人土木研究所との連携・協力の推進に関する協定書を締結

平成27年3月に、両機関の研究開発能力と研究資産等を活かし、先進的・実用的な研究開発及び次世代を担う人材の交流・育成を目的とし、北陸3県の大学では初めてとなる連携・協力の推進に関する協定を締結した。

ドンドン マスマス 充実する教育環境！

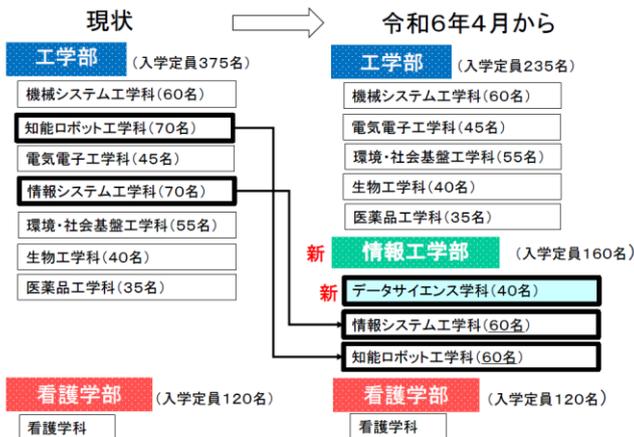
令和6年4月新設

○情報工学部の新設

情報やデジタルの技術を軸に機械工学や電子工学など工学に立脚する科学技術で、現代社会の抱える様々な課題を主体的に解決しようとする能力と意欲のある人材育成を目的に、令和6(2024)年4月に、情報工学部を新設します。

【6つの教育の特色】

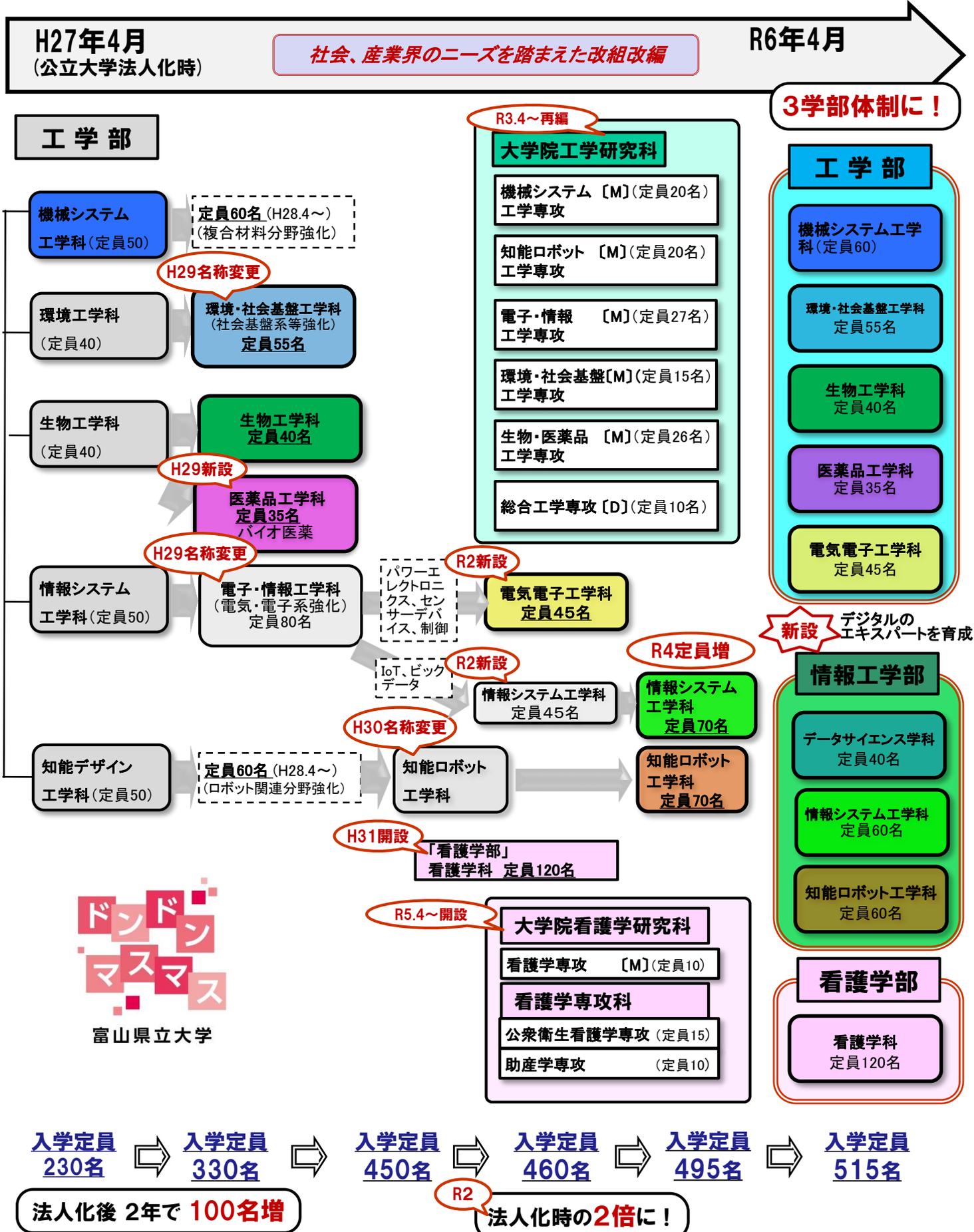
- ① データサイエンスの専門教育
- ② 少人数によるゆきとどいた教育
- ③ デザイン思考による課題発見解決力
- ④ 企業の技術者との連携授業
- ⑤ 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成
- ⑥ 学生の自立を促すキャリア教育



「情報工学部棟(仮称)」建設予定図

富山県立大学の拡充計画 「地域に貢献する、より魅力ある大学へ！」

富山県立大学では、県内産業等に求められる人材育成と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、学部学科の拡充・新設、大学院工学研究科専攻の再編を進めてきました。今後は、デジタル化の進展に応じた人材、専門看護師など高度な看護人材等の育成に向けた取組みを進めます。



デジタルのエキスパートを育成！

大学院看護学研究科

R5.4~開設

看護学専攻 [M] (定員10)

看護学専攻科

公衆衛生看護学専攻 (定員15)

助産学専攻 (定員10)

富山県立大学

入学定員 230名 ⇒ **入学定員 330名** ⇒ **入学定員 450名** ⇒ **入学定員 460名** ⇒ **入学定員 495名** ⇒ **入学定員 515名**

法人化後 2年で 100名増

R2 法人化時の2倍に！





公立大学法人富山県立大学

事務局 経営企画課
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL (0766) 56-7500 [代表]

令和5年8月発行